

3-2 考古学

研究・教育活動の概要と特色

考古学専攻分野は、戦前の奥羽史料調査部の考古学研究に根ざし、1957年の講座設置以来、東北地方における中心的な考古学研究教育機関としての、長い伝統を發展させています。遺跡・遺物の調査に基づく実証主義の学風をよく継承し、地域の自治体などとも連携し、先端的な調査・分析・報告を続けています。近年10年間においても、旧石器、縄文、弥生、古墳、古代の各時代の遺跡ともに、発掘調査等の研究対象としてきました。遺跡の高精度な調査、遺物の問題志向的な分析を重ねています。また、旧石器時代遺跡の調査方法、先史文化の比較研究、先史集落の研究、地域性の解明、型式学・技術論・機能論の深化、遺物の材質分析、なども重点的テーマとし、研究を進めています。米国、フランス、ロシア、中国、韓国などとの研究交流も活発に行なっています。

考古学陳列館・標本室に総数20万点以上の、考古学収蔵資料の蓄積を有し、各時代の基準資料に優れ、これらは教育にも活用しています。収蔵資料のデータベース化を順次、着実に進めています。重要資料は、博物館の特別展示等、全国的に公開されています。大学院修了生、学部卒業生ともに、多数が研究者、学芸員、文化財調査員など、専門職の進路を選択して活躍しています。東北歴史博物館、多賀城跡調査研究所との連携大学院である「文化財科学専攻分野」とは緊密に協力して、教育成果を上げていますので、以下の諸表での該当項目は、両専攻分野を併記してありますことを、申し添えます。

I 組織

1 教員数 (2015年5月20日現在)

考古学

教授：1

准教授：1

講師：0

助手：1

教授：阿子島香

准教授：鹿又喜隆

助手：川口亮

文化財科学

客員教授：2

客員准教授：1

客員教授：山田晃弘、須田良平

客員准教授：吉野 武

2 在学生数 (2015年5月20日現在)

考古学

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
26	0	7	3	0

文化財科学

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
—	—	1	0	0

(文化財科学は、大学院のみで、学部課程はありません)

3 修了生・卒業生数 (2010～2014年度)

考古学

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
10	6	3	0
11	2	1	0
12	2	3	0
13	4	1	0
14	7	1	0
計	21	9	0

文化財科学

年度	学部卒業者	大学院博士課程前期修了者	大学院博士課程後期修了者 (満期退学者)	博士学位授与者
10	-	0	0	0
11	-	1	0	0
12	-	1	0	0
13	-	0	0	0
14	-	0	0	0
計	-	2	0	0

Ⅱ 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2010～2014年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
10	0	0	0
11	0	0	0
12	0	0	0
13	0	0	0
14	0	3	3
計	0	0	0

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

藤沢敦 2014年度 「考古学から見た日本古代国家形成過程の東北地方」
 (主査) 阿子島香、(副査) 鹿又喜隆、柳原敏昭

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数（考古学と文化財科学を併せたもの）

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
10	2	2	0	6	10
11	0	2	1	23	26
12	3	1	0	0	4
13	2	1	0	0	3
14	0	2	0	0	2
15	0	0	0	1	1

計	7	8	1	30	46
---	---	---	---	----	----

*2015年度は5月20日までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数（考古学と文化財科学を併せたもの）

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
10	0	3	0	0	3
11	2	2	0	0	4
12	0	1	0	0	1
13	0	0	0	0	0
14	0	2	0	0	2
15	0	3	0	0	3
計	2	11	0	0	13

*2013年度は5月20日までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

鹿又喜隆・村田弘之・傳田恵隆 「鍛冶沢遺跡出土石器の使用痕分析」『鍛冶沢遺跡』
pp.274-281 宮城県文化財調査報告書第222集, 2010

村田弘之 「九州島の細石刃文化研究における方法論上の問題－特に編年と型式の関係を巡って－」『歴史』第114輯 pp.1-27, 2010

鹿又喜隆・柳田俊雄・阿子島香・佐野勝宏・村田弘之・傳田恵隆 「山形県丸森1遺跡第三次発掘調査の概要」, 『東北史学会2010年度大会発表要旨』p.2, 2010

村田弘之 「福井洞穴出土細石刃の機能研究」『文化』第74巻第1・2号: pp. 39-83, 2010

佐野勝宏・鹿又喜隆・村田弘之・阿子島香・柳田俊雄 「山形県舟形町高倉山遺跡第1次発掘調査」『第24回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』: pp. 87-92, 2010

村田弘之・柳田俊雄・阿子島香・鹿又喜隆・佐野勝宏 「山形県真室川町丸森1遺跡第3次発掘調査」『第24回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』: pp. 81-86, 2010

鹿又喜隆・村田弘之 「第4節 西浦B遺跡出土石器の使用痕分析」『西浦B遺跡』蔵王町文化財調査報告書第10集: pp.170-173, 2011

村田弘之・傳田恵隆 「イタリアにおける考古学専攻分野と博物館学の实地研修およびソンマ・ヴェスヴィアーナ発掘調査」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員

養成計画 平成 21 年度院生プロジェクト成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 110-122, 2011

村田弘之・傳田恵隆「北アメリカ更新世・完新世移行期における環境変動と人類適応行動に関する研究—ワイオミング州 Two Moon 洞穴発掘調査概要—」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 21 年度院生プロジェクト成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 123-132, 2011

鹿又喜隆・村田弘之・傳田恵隆・小原一成・五十嵐愛「国際フィールドスクール『山形県真室川町埋蔵文化財調査実習』報告」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 21 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 131-136, 2011

村田弘之・傳田恵隆・五十嵐愛「フランスにおける考古学・博物館学研修」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 21 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 230-244, 2011

村田弘之「長崎県福井洞穴出土資料の現状に関する調査報告」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 21 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 256-259, 2011

村田弘之「長崎県福井洞穴出土資料の整備報告」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 21 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 352-357, 2011

村田弘之・阿子島香「長崎県福井洞穴出土資料の歴史資源アーカイブ構築」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 20～22 年度歴史資源アーカイブ成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 30-40, 2011

村田弘之・阿子島香「芹沢資料の歴史資源アーカイブ」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 20～22 年度歴史資源アーカイブ成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 41-51, 2011

鹿又喜隆・佐野勝宏・村田弘之・傳田恵隆・五十嵐愛・曹曉勻「国際フィールドスクール『山形県真室川町埋蔵文化財調査実習』」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 36-46, 2011

村田弘之「宮城県加美町砂坂遺跡発掘調査」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp.137-138, 2011

村田弘之「山形県舟形町高倉山遺跡発掘調査」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp.139-140, 2011

村田弘之「東北日本の旧石器文化を語る会での発表」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp.141-147, 2011

村田弘之「歴史資源アーカイブの研究」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp.194-197, 2011

村田弘之「フランス先史考古学の方法論について—パンスヴァン・エティオール及び諸博物館における研修報告—」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp.348-353, 2011

傳田恵隆「福島県笹山原 No.16 遺跡出土石器の使用痕分析」, 『第 23 回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』 pp.38-45 ,2009.12

鹿又喜隆・傳田恵隆「福島県笹山原 No.8 遺跡の機能研究」, 『第 23 回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』 pp.52-56 ,2009.12.

傳田恵隆・村田弘之・芝康次郎・阿子島香 「東北大学基準資料の考え方」『石器使用痕研究会会報』 10, p.5-6, 2010.3

小野章太郎・鹿又喜隆・佐久間光平・傳田恵隆・村田弘之「加美町薬菜山麓の旧石器遺跡(1) —薬菜山 No.17 遺跡—」『宮城考古学』 12 pp.181-188 ,2010.5

傳田恵隆「ソンマ・ヴェスピアーナ遺跡発掘調査成果学会参加報告」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 21 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 260-264, 2011

傳田恵隆「モンゴルにおける Tolbor-15 遺跡の発掘調査」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 354-362, 2011

傳田恵隆・柳田俊雄・阿子島香・鹿又喜隆・佐野勝宏「山形県舟形町高倉山遺跡第二次発掘調査の概要」『東北史学会 2011 年度大会』 p.6, 2011

佐野勝宏・鹿又喜隆・阿子島香・傳田恵隆・柳田俊雄「山形県舟形町高倉山遺跡第 2 次発掘調査」『第 25 回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』：pp. 74-82, 2011

傳田恵隆・佐々木智穂・鹿又喜隆・阿子島香・柳田俊雄「最上川流域の後期旧石器文

- 化の研究2 上ミ野 A 遺跡第3次発掘調査報告書』『東北大学総合学術博物館紀要』No.11 : pp.1-200, 2012
- 佐野勝宏・傳田惠隆「J15 出土旧石器資料の機能分析」『山形県埋蔵文化財センター調査報告書第200集 高瀬山(HO)3期発掘調査報告書』財団法人山形県埋蔵文化財センター : pp.120-124, 2012
- 傳田惠隆・佐野勝宏「高倉山遺跡出土資料のファブリック解析」『旧石器考古学』76 : pp.69-82, 2012
- 佐野勝宏・傳田惠隆・大場正善「狩猟法同定のための投射実験研究(1) 一台形様石器」『旧石器研究』第8号 : pp.45-63, 2012
- 傳田惠隆「ファブリック解析による遺跡形成の研究—方法と応用に関する一試論—」『旧石器考古学』77, pp.15-30, 2012
- 五十嵐愛・傳田惠隆・曹曉勻「東北大学所蔵の麻生遺跡コレクション」『秋田考古学』第54号 : pp.1-14 2010
- 五十嵐愛「秋田・青森両県における縄文時代晩期資料の調査について」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成21年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻 : pp. 265-267, 2011
- 五十嵐愛・傳田惠隆・小原一成「博物館展示企画の実践研修—東北大学自然史標本館の人類文化史部門ブース」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成21年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻 : pp. 319-334, 2011
- 五十嵐愛「『東北大学所蔵の麻生遺跡コレクション』報告の意義」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成20~22年度歴史資源アーカイブ成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻 : pp. 72-73, 2011
- 曹曉勻「連携大学院文化財科学研究実習Ⅱ: 多賀城における研修」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成22年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻 : pp. 87-92, 2011
- 曹曉勻・傳田惠隆・村田弘之「福島県会津若松市笹山原遺跡 No.16 における発掘調査」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成22年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻 : pp. 130-136, 2011
- 工藤麻衣・川口亮「東北大学所蔵の麻生遺跡コレクション(2)」『秋田考古学』56, pp.1-11, 2012
- 佐野勝宏・鹿又喜隆・洪惠媛・川口亮・張思燿・阿子島香・柳田俊雄「山形県舟形

- 町高倉山遺跡第3次発掘調査』『第26回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』
pp.69-78, 2012
- 佐野勝宏・洪惠媛・張思燿・鹿又喜隆・阿子島香・柳田俊雄「山形県高倉山遺跡出土ナイフ形石器に残る狩猟痕跡の研究」『東北大学総合学術博物館紀要』No.12 :
pp.45-76, 2013.3
- 鹿又喜隆・川口亮・洪惠媛・村椿篤史・阿子島香・柳田俊雄「山形県新庄市白山 E 遺跡第1次発掘調査」『第27回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』 pp.25-34,
2014.2
- Akoshima, Kaoru, & Hong, Hyewon, Standard use-wear chart of TUMRT(1) : Microflaking(1),
Bulletin of the Tohoku University Museum, No13, pp.43-76, 2014.3
- 洪惠媛・鹿又喜隆・川口亮・村椿篤史・阿子島香・柳田俊雄「山形県新庄市白山 E 遺跡第2次調査」『第28回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』
pp.46-55 2015.2
- 川口亮・村椿篤史「東北大学所蔵の麻生遺跡コレクション(3)」『秋田考古学』57: pp.1-17,
2013.12
- 川口亮・村椿篤史・熊谷亮介「東北大学所蔵の麻生遺跡コレクション(4)」『秋田考古学』58 pp.1-21 2014.12
- 鹿又喜隆・村田弘之・梅川隆寛・洪惠媛・柳田俊雄・阿子島香・鈴木三男・井上巖・早瀬亮介・小原圭一「九州地方における洞穴遺跡の研究—長崎県福井洞穴第三3次発掘調査府報告書—」『東北大学総合学術博物館紀要』No14: pp.5-190, 2015.3
- 鹿又喜隆・熊谷亮介 2015.03.25.「清水西遺跡出土石器の形態と機能の関係」『清水西遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第220集公益財団法人山形県埋蔵文化財センター 付編 pp.10-24

(2) 口頭発表

国内学会

- 鹿又喜隆・柳田俊雄・阿子島香・佐野勝宏・村田弘之・傳田惠隆 山形県丸森1遺跡第三次発掘調査の概要 東北史学会 2010年度大会 2010.10.3
- 村田弘之・柳田俊雄・阿子島香・鹿又喜隆・佐野勝宏「山形県真室川町丸森1遺跡第3次発掘調査」第24回東北日本の旧石器文化を語る会 2010.12.18-19
- 佐野勝宏・鹿又喜隆・村田弘之・阿子島香・柳田俊雄「山形県舟形町高倉山遺跡第1次発掘調査」第24回東北日本の旧石器文化を語る会 2010.12.18-19

傳田惠隆・柳田俊雄・阿子島香・鹿又喜隆・佐野勝宏「山形県舟形町高倉山遺跡第2次発掘調査の概要」東北史学会 2011 年度大会 2011.10.2

佐野勝宏・鹿又喜隆・阿子島香・傳田惠隆・柳田俊雄「山形県舟形町高倉山遺跡第2次発掘調査」第25回東北日本の旧石器文化を語る会 2011.12.17-18

佐野勝宏・鹿又喜隆・洪惠媛・川口亮・張思燿・阿子島香・柳田俊雄「山形県舟形町高倉山遺跡第3次発掘調査」第26回東北日本の旧石器文化を語る会 2012.12.22-23

鹿又喜隆・川口亮・洪惠媛・村椿篤史・阿子島香・柳田俊雄「山形県新庄市白山 E 遺跡第1次発掘調査」第27回東北日本の旧石器文化を語る会 2014.2.1-2

洪惠媛・川口亮・鹿又喜隆・阿子島香・柳田俊雄「山形県新庄市白山 E 遺跡第2次発掘調査の概要」2014 年度東北史学会大会 2014.10.4

洪惠媛・鹿又喜隆・川口亮・村椿篤史・阿子島香・柳田俊雄「山形県新庄市白山 E 遺跡第2次調査」第28回東北日本の旧石器文化を語る会 2015.2.21-22

熊谷亮介「石器横断面の分析手法に関する問題提起と改案—山形県の後期旧石器時代資料の分析から—」日本旧石器学会第13回大会 2015.6.20-21

村椿篤史・熊谷亮介「山形県高倉山遺跡における遺跡形成過程の検討」日本旧石器学会第13回大会 2015.6.20-21

国際学会

Sano, Katsuhiko, Yoshitaka Danda, & Masayoshi Ohaba, Experiments in fracture patterns and impact velocity with replica projectile points from Japan, *Multidisciplinary Scientific Approaches to the Study of Stone-Age Weaponry*, Mainz, Germany, September 19th – 22nd, 2011

Sano, Katsuhiko, Yoshitaka Danda, Masayoshi Ohba, and Iovita Radu, Projectile Experiments in Fracture Patterns and Impact Velocity: Towards Understanding to Hunting Evolution, *The 4th Meeting of the Asian Palaeolithic Association*, Tokyo, November 26th – December 1st, 2011

3 大学院生・学部生等の受賞状況

なし

4 日本学術振興会研究員採択状況

受入なし

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

- 2010年度 大学院特別研究学生 日仏共同博士課程 受入 1名
2010年度 学部留学生 受入 1名 (2010年度留学生合計3名)
2011年度 研究生 受入 1名 (2011年度留学生合計2名)
2012年度 学部留学生 受入 1名
2012年度 大学院博士課程前期 受入 1名
2012年度 大学院博士課程後期 受入 1名 (2012年度留学生合計3名)
2013年度 学部留学生 受入 1名 (2013年度留学生合計4名)
(文化財科学を含む)

5-2 留学生の受け入れ状況 (学部・大学院)

年度	学部	大学院	計
10	0	1	1
11	0	0	0
12	0	2	2
13	0	2	2
14	0	1	1
15	0	1	1
計	0	7	7

(文化財科学を含む)

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
10	0	0	0
11	0	0	0
12	0	0	0
13	0	2	2
14	0	2	2
15	0	2	2
計	0	6	6

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

五十嵐愛、仙台市教育委員会、2010年度博士前期課程修了

曹曉勻、(財)和歌山市都市整備公社(文化スポーツ振興財団)、2011年度博士前期課程修了

傳田惠隆 宮城県教育庁文化財保護課、2012年度博士後期課程中退

秋山綾子 福井県教育庁、2012年度博士前期課程修了

工藤麻衣 弘前市役所教育委員会社会教育課、2012年度博士前期課程修了

小原一成、多賀城市教育委員会、2013年度博士後期課程中退

村田弘之、長野県長和町教育委員会、2013年度博士後期課程中退

村椿篤史 札幌市埋蔵文化財センター、2014年度博士前期課程修了

7-2 専攻分野出身の高度職業人

中高教員1名

8 客員研究員の受け入れ状況

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況

パリ第1大学(フランス)・教授・Boris Valentin、CNRS 中央アジア考古学部門(フランス)・一級研究員・Frédérique Brunet 2010年3月29日～4月6日

ロシア科学アカデミー・シベリア支部・考古学民族学研究所(ロシア)国際部長・Dr.Andrei Tabarev、極東国立大学博物館(ロシア)・考古学民族学部門長・Dr.Alexander Popov、2010年3月24日～3月27日

河南省文物考古研究所(中国)・研究室主任・李占揚、河南省文物管理局(中国)・資源局副局長・王瑞琴、許昌市文物局(中国)・副局長・高宇平、2010年7月21日～7月22日

ソウル国立大学 考古学・美術史学部教授 李 鮮馥

2012年1月26日～2012年2月28日

ロシア科学アカデミー・シベリア支部・考古学民族学研究所(ロシア)国際部長・Andrei Tabarev、国際部助手・Elena Solovieva 2012年10月28日～11月1日

朝鮮大学 史学科考古学専攻教授・博物館館長 李 起吉

2012年9月1日～2013年2月28日

ロシア科学アカデミー・シベリア支部・考古学民族学研究所（ロシア）専門研究員・

Alexander Solovyev、国際部助手・Elena Solovieva 2013年10月3日～2013年10月4日

ロシア科学アカデミー・シベリア支部・考古学民族学研究所（ロシア）国際部長・

Andrei Tabarev、研究協力者・Kiril Tabarev 2013年10月17日～10月24日

フランス CNRS・中央アジア考古学部門・一級研究員 Frédérique Brunet、2014年2

月6日～3月10日

ロシア科学アカデミー・シベリア支部・考古学民族学研究所（ロシア）国際部長・

Andrei Tabarev、2014年10月20日～10月23日、同 研究協力者 Daria Ivanova
2014年10月20日～11月1日

フランス CNRS、ルネ・ジヌーブ考古学民族学研究所（ナンテール）、研究部長

Jacque Pelegrin、2014年9月19日～9月28日

10 刊行物（専攻分野刊行のもの）

なし

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2010年度

東北史学会

宮城県考古学会総会・研究発表会

宮城県考古学会事務局

2011年度

東北史学会

宮城県考古学会事務局

2012年度

東北史学会

宮城県考古学会事務局

第26回東北日本の旧石器文化を語る会

2013年度

東北史学会

宮城県考古学会事務局

2014 年度

東北史学会

宮城県考古学会事務局

2015 年度

東北史学会

宮城県考古学会事務局

日本旧石器学会第 13 回大会会場事務局

1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況

2010 年度

大学院 GP 国際シンポジウム「Technological evolution through the end of the Paleolithic- A comparative perspective from France -」2010 年 4 月 3 日

① ボリス・バレンタン氏 (パリ第 1 大学) 「Economic and Technical Evolutions in Northwestern Europe during Lateglacial Times: Focus on the Magdalenian-Azilian Transition in the Parisian Basin (XIVe-XIIe millenium cal B.C.)」

②フレデリック・ブルネ氏 (Centre national de la recherche scientifique) 「Variety and Evolution of the Blade Technology in Central Asia from Late Paleolithic to Neolithic : A New Consideration of the Cultural and Economic Processes 」

大学院 GP 国際セミナー 李占揚氏 (河南省文物考古研究所) 「河南省許昌靈井遺跡の調査と研究」 (2010 年 7 月 21 日)

2011 年度

特別講演会 李鮮馥氏 (ソウル国立大学 考古学・美術史学部教授) 「韓国の旧石器時代研究と全谷里遺跡の最近の調査成果」 (2012 年 2 月 4 日)

2012 年度

国際シンポジウム

1 アンドレイ・タバレフ氏 (ロシア科学アカデミー・シベリア支部・考古学民族学研究所) 「Palaeolithic of Northern Mongolia: Preliminary Results of 2011-12 Field Works」

2 エレーナ・ソレビエヴァ氏 (ロシア科学アカデミー・シベリア支部・考古学民族学研究所) 「On Neolithic of the Russian Far East」 (2012 年 10 月 31 日)

2013 年度

特別講演会 李起吉氏 (朝鮮大学校 教授) 「私の考古学研究とエピソード」 (2013

年 4 月 19 日)

国際セミナー「The History of Armours and Weapons in Siberia」アレクサンダー・ソロビエフ氏 (2013 年 10 月 4 日)

国際シンポジウム「New Horizon of scientific cooperation, Russian and Japanese archaeologists in Paleamerican studies」アンドレイ・ターバレフ氏、阿子島教授、鹿又准教授 (2013 年 10 月 23 日)

2014 年度

国際セミナー「The Technology as a Heuristic Approach to Lithic Analysis. Some Case Studies in Central Asian Prehistory」フレデリック・ブルネ氏 (2014 年 3 月 3 日)

国際セミナー「Interfacing lithic technology and function: French and Japanese Palaeolithic」ジャック・ペレグラン氏、阿子島教授 (2014 年 9 月 27 日)

国際シンポジウム「Transpacific Perspectives on Post-Pleistocene Adaptations」アンドレイ・ターバレフ氏、ダリア・イワノワ氏、鹿又准教授、有松唯助教 (2014 年 10 月 21 日)

1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去 5 年間の自己点検と評価

考古学専攻分野では、組織的な調査、分析研究、報告、教育などの各面は、不即不離で総合的なものという立場で、研究教育活動を進めてきました。考古学専攻分野の教員数は、教授 1 名、准教授 1 名です。東北大学総合学術博物館の教授 1 名が協力教員となっています。

在籍学生数は、年により増減がありますが、収容定員数 10 名に対し、各年 2~8 名の卒業生を出しています。修士課程は、収容定員数 2 名に対し、各年 1~3 名の修了生を出しています。論文博士は、2014 年度に 3 名です。考古学専攻分野は、宮城県立東北歴史博物館、および多賀城跡調査研究所との協定による連携大学院である「文化財科学専攻分野」(客員教授 2、客員准教授 1) と緊密に協力して教育成果をあげております。収容定員は、各年 1 名ですが、2009~2014 年度で、2 名の修士を出しています。卒業生、修了生の進路は、民間企業をはじめ多岐にわたっていますが、考古学・文化財の専門分野の研究者も多く、宮城県、福井県、仙台市、多賀城市、弘前市、札幌市などで活躍しています。

組織としての発掘調査は、5 年間のうちに、旧石器時代(山形県真室川町丸森 1 遺

跡・舟形町高倉山遺跡・新庄市白山E遺跡)、縄文時代(仙台市青葉区野川遺跡)、旧石器・縄文・平安時代(福島県会津若松市笹山原 No.16 遺跡への協力)の調査を実施しています。また、多賀城跡調査研究所による発掘調査には、毎年、文化財科学研究実習として、院生と希望する学部生が参加しています。調査資料の整理と報告は、継続的に進めており、山形県新庄市上ミ野A遺跡、大分県日出町早水台遺跡(総合学術博物館との協力)、宮城県角田市土浮貝塚(角田市教育委員会との協力)、宮城県石巻市梨木畑貝塚、岩手県奥州市里槍遺跡、長崎県佐世保市福井洞穴の報告書を刊行しています。また大学院生の研究発表は活発であり、5年間で論文等46件、口頭発表11件となっています。地域での学会活動では、宮城県考古学会、東北史学会、東北日本の旧石器文化を語る会で、運営に参画し、研究発表を行っています。

収蔵資料の整理とデータベース化は、文学研究科歴史科学専攻の「歴史資源プロジェクト」と連動しつつ継続的に進めています。考古学陳列館の主要資料について、約3500件の画像データベース化を行い、考古学標本室収蔵の約7000箱について、資料内容のリスト化を進めました。また、伊東信雄資料のうちサハリン関係資料、山内清男の大木式土器標識資料について、詳細な内容を調査、公開しました。文学研究科所蔵の考古学、民族学資料は、各地博物館の特別展等への貸し出しを積極的におこない、2011年10件、2012年度10件、2013年度10件、2014年度7件です。2013年度では11件16名の研究者による見学調査を受け入れました。その他に、博物館や出版社の出版物掲載願いを16件受け入れました。

国際交流では、米国、台湾、中国、フランス、ロシアからの研究者、また総合学術博物館へ韓国から2名の客員教授を受け入れ、資料の共同研究を行っています。

Ⅲ 教員の研究活動(2010~2014年度)

1 教員による論文発表等

1-1 論文

市川健夫・小林正史・阿子島香 「岩手県奥州市里槍遺跡発掘調査報告(土器編)」

『Bulletin of the Tohoku University Museum』9,2010

阿子島香 「日本石器微痕研究の新進展」(中国語訳)『東南考古研究』4, pp.73-87. Xiamen University Press, 2010..

Akoshima, Kaoru. Lithic use-wear analysis: Method and Theory now and then. The 15th International Symposium: Suyanggae and Her Neighbours, pp. 56-62. Institute of Korean Prehistory. 2010.5

Akoshima, Kaoru. Integrating Lithic Microwear Data with Site Structure Analysis: An Organizational Approach. Diversity of the Asian Palaeolithic Culture; Recent Progress and New Trends. The 3rd Asian Palaeolithic Association International Symposium, p.61, 2010

村田弘之・柳田俊雄・阿子島香・鹿又喜隆・佐野勝宏 「山形県真室川町丸森 1 遺跡第 3 次発掘調査」『第 24 回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』: pp. 81-86, 2010

Yanagida, Toshio, and Akoshima, Kaoru. Preface: Research of the Early Palaeolithic Industry discovered at the Sozudai site, Oita Prefecture, Kyushu Japan (2). Bulletin of the Tohoku University Museum, No. 10, pp.1-8, 2011.3

Akoshima, Kaoru. Lithic Use-wear Analysis: Method and Theory Now and Then. The 15th International Symposium: SUYANGGAE and Her Neighbours, edited by Yung-jo Lee and Jong-yoon Woo. Danyang County Office and Institute of Korean Prehistory, pp.99-115. 2010.12

Yanagida, Toshio, and Akoshima, Kaoru. Bifacial Elements in the Japanese Early Palaeolithic industry: the Sozudai site, Kyushu Island. Les cultures a biface du Pleistocene inferieur et moyen dans le monde: the 2nd International Symposium of Bifaces of the Lower and Middle Pleistocene of the World, Jeongok (Chongok) Prehistory Museum, pp.16-21, 2011.4

○Akoshima Kaoru and Kanomata Yoshitaka. Site Structure and Human Behavior at the Araya site, Northeastern Japan. *The 16th International Symposium: SUYANGGAE and Her Neighbours in Nihewan*, pp.64-66, 2011.8.

傳田惠隆・佐々木智穂・鹿又喜隆・阿子島香・柳田俊雄 「最上川流域の後期旧石器時代文化の研究 2 上ミ野 A 遺跡第 3 次発掘調査報告書」『Bulletin of the Tohoku University Museum』 11 pp.1-194, 2012.3

阿子島香 「技術組織論・動作連鎖論の人類学的背景と考古学的適用」『第 26 回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』 pp.19-25, 2012.12

Akoshima, Kaoru and Aoyama, Kazuo Verifying the Function of Yayoi “*Ishibocho*” Tools from Tohoku District. Bulletin of the Tohoku University Museum, No.12, pp.77-89, 2013.3.

○Akoshima, Kaoru, and Kanomata, Yoshitaka. Site Structure and Human Behavior at the Araya Site, Northeastern Japan. *Suyanggae and Her Neighbors in Nihewan*, The 16th International Symposium, edited by Lee Yung-jo, Gao xing, and Xie Fei, pp.173-192.

Ocean Press (China). 2013.6

Akoshima, Kaoru and Hong, Hyewon. Standard Use-wear Chart of TUMRT (1): Microflaking

(1). Bulletin of the Tohoku University Museum, No. 13, pp.43-76. 2014.3.

阿子島香・柳田俊雄「群馬県鶴ヶ谷東遺跡発掘調査の研究報告—日本前期旧石器時代の研究—」 Bulletin of the Tohoku University Museum, No. 14, pp.201-274. 2015.3.

鹿又喜隆・村田弘之・傳田惠隆「鍛冶沢遺跡出土石器の使用痕分析」『鍛冶沢遺跡』 pp.274-281,宮城県文化財調査報告書第 222 集 2010.3.26

Yoshitaka Kanomata The Relationship between Human and Environment from the End of Pleistocene to the Beginning of Holocene in Japan. Technological evolution through the end of the Paleolithic - A comparative perspective from France - , pp.99-108, 2010.4.3

鹿又喜隆「縄文時代後晩期の石冠の機能に関する一考察」『宮城考古学』12 pp.143-152, 2010.5.16

小野章太郎・鹿又喜隆・佐久間光平・傳田惠隆・村田弘之「加美町薬菜山麓の旧石器遺跡（1）—薬菜山 No.17 遺跡—」『宮城考古学』12 pp.181-188, 2010.5.16

鹿又喜隆「更新世最終末の石器集積遺構に含まれる道具の評価—宮城県仙台市野川遺跡の機能研究と複製石器の運搬実験を通して—」『日本考古学』30号 pp.47-63, 2010.10.

Kanomata Yoshitaka Functional Versatility of Tools in Microblade Industries. *Diversity of the Asian Palaeolithic Culture: Recent Progress and New Trends*, The 3rd Asian Palaeolithic Association International Symposium, p.39, 2011.10.

鹿又喜隆「後期旧石器時代前半期石器群の機能的考察」『第 24 回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』 pp.57-69, 2010.12.18

鹿又喜隆・村田弘之「第 4 節 西浦 B 遺跡出土石器の使用痕分析」『西浦 B 遺跡』蔵王町文化財調査報告書第 10 集 : pp.170-173, 2011.1.31

鹿又喜隆「考古学における実物資料の蓄積を通じた学術的・教育的効果」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 20~22 年度歴史資源アーカイブ成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻 : pp. 52-58, 2011.3

鹿又喜隆「付編 3 地蔵田遺跡出土石器の機能研究と環状ブロック群形成の解釈」『秋田市地蔵田遺跡—旧石器時代編—』秋田市教育委員会 pp.182-192, 2011.3.

鹿又喜隆「石器の空間分布による廃棄・遺棄行動の解釈とその妥当性の検討—岩手県上萩森遺跡における遺物の空間構造—」『旧石器考古学』74号 pp.61-75, 2011.3

鹿又喜隆「細石刃集団による地域間の活動差」『東北文化研究室紀要』通巻 52 集、

pp.182-200, 2011.3

Yoshitaka Kanomata Functional Analysis of Stone Tools Excavated from the Jizouden Site and Interpretation of the Formation Process of the Circular Lithic Distribution. *Dual Symposia The Emergence and Diversity of Modern Human Behavior in Palaeolithic Asia & the 4th Annual Meeting of the Asian Palaeolithic Association*, p.65, 2011.11

鹿又喜隆「日本列島における後期旧石器時代初頭の概要と研究課題」『宮城考古学』13 pp.5-12, 2011.12

小野章太郎・鹿又喜隆・佐久間光平・中沢祐一・村上裕次・村田弘之「加美町薬菜山麓の旧石器遺跡(2)—薬菜原 No.20 遺跡—」『宮城考古学』13 pp.193-202, 2011.12

Yoshitaka Kanomata Accurate Chronology of Palaeolithic Industries by Radiocarbon AMS Determinations. *Saito Ho-on Kai Museum Research Bulletin*, 76 pp.25-41, 2012.3

傳田惠隆・佐々木智穂・鹿又喜隆・阿子島香・柳田俊雄「最上川流域の後期旧石器時代文化の研究 2 上ミ野 A 遺跡第 3 次発掘調査報告書」『Bulletin of the Tohoku University Museum』11 pp.1-194, 2012.3

鹿又喜隆「石器使用痕光沢面の形成過程に関するトライボロジーによる理解」『文化』75-3・4 pp.125-140, 2012.03

鹿又喜隆「杉久保石器群の石器機能研究—高瀬山遺跡 2011 年度調査資料の使用痕分析—」『山形考古』9-4 pp.13-22, 2012.8

鹿又喜隆「沿海州の後期旧石器時代石器群における石器機能研究—ウスチノフカ I 遺跡・スヴォロワ III・IV 遺跡—」『旧石器考古学』77 pp.85-92 2012.10.31

鹿又喜隆「石器作りの「上手・下手」の客観的評価—荒屋遺跡出土の彫刻刀形石器における使用と刃部再生の技術組織—」『第 26 回東北日本の旧石器文化を語る会 予稿集』pp.48-58 2012.12.21

鹿又喜隆「付編 2 下堤 G 遺跡出土石器の機能研究—米ヶ森型台形石器の製作と使用の関係—」『秋田市下堤 G 遺跡—旧石器時代編—』秋田市教育委員会 149—168 頁 2013 年 3 月

GUNCHINSUREN Byambaa, GLADYSHEV Sergey, TABAREV Andrei, KANOMATA Yoshitaka and KHATSENOVICH Arina 「Use-wear Analysis on Palaeolithic Artifacts of Northern Mongolia」『Bulletin of the Tohoku University Museum』12 pp.8-24, 2013.03.

鹿又喜隆「北海道における初期細石刃石器群の機能研究—千歳市柏台 1 遺跡出土石器

- の使用痕分析— 『旧石器研究』 第 9 号 pp.27-41, 2013.5.
- 鹿又喜隆「北海道・本州における細石刃石器群の石器使用行動の共通性とその含意—北海道暁遺跡第 1 地点における石器機能研究を中心に—」 『日本考古学』 第 35 号 pp.27-45, 2013.5.
- A. B. Tabarev, K. D. Gillam, Й. Каномата, Б. Гунчинсурен 「Толворский Палеолитический Клад」 『Паеозоокоогия. Каменный Век』 3 (55) pp.14-21 Археология, этнография и антропология Евразии 2013.3.
- A. V. Tabarev, J. C. Gillam, Y. Kanomata, and B. Gunchinsuren A Paleolithic Cache at the Tolbor (Northern Mongolia). *Archaeology Ethnology & Anthropology of Eurasia* 41/3 pp.14-21, 2013.09.
- 鹿又喜隆「北海道細石刃石器群のキャンプサイトにおける骨角加工の実態—オルイカ 2 遺跡の事例から—」 『文化』 第 77 卷 1・2 号 pp.26-41, 2013.9.24
- 鹿又喜隆「神子柴・長者久保石器群における石器機能研究—福島県林口遺跡—」 『歴史』 第 121 輯 pp.1-14, 2013.10.25.
- 鹿又喜隆・川口亮・洪惠媛・村椿篤史・阿子島香・柳田俊雄「山形県新庄市白山 E 遺跡第 1 次発掘調査」, 『第 27 回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』 pp.25-34 2014.2.01.
- A. B. Tabarev, Й. Каномата, K. Стосерт Каменный Инвентарь Раннеголоценовой Культуры Лас Вегас, Эквадор. (Tabarev A.V., Stotert K., Kanomata Y. Tool-Kit of Early Holocene Las Vegas Culture, Ecuador) *Problems of Archaeology, Ethnography, and Anthropology of Siberia and Adjacent Territories*. - Novosibirsk: Institute of Archaeology and Ethnography, 2013.- Vol.XIX. - P.154-157. 2014.3.
- 鹿又喜隆「付章 3 葉菜原 No.15 遺跡における石器機能と遺跡構造による狩猟法の理解」 『葉菜原 No.15 遺跡 II —町道表葉菜線整備工事に伴う発掘調査報告書—』 pp.121-146 加美町教育委員会 加美町文化財調査報告書第 24 集, 2014.03.28.
- Yoshitaka Kanomata, Andrei V. Tabarev, Julia V. Tabareva and Karen E. Stothert Functional Analysis of Prehistoric Artifacts from Coastal Ecuador. *Bulletin of the Tohoku University Museum* No.13 pp.31-42, 2014.03.26
- 鹿又喜隆 「北小松遺跡出土石器の機能と色」 『北小松遺跡 —田尻西部地区ほ場整備事業に係る平成 21 年度発掘調査報告書—』 (第 2 分冊 第 9 章) 宮城県文化財調査報告書第 234 集 pp.111-130, 2014.3.

小野章太郎・鹿又喜隆・佐久間光平（以上、執筆・編集）・大場正善・熊谷亮介・傳田惠隆・洪惠媛・松本茂・村上裕次・村椿篤史「加美町薬菜山麓の旧石器遺跡（3）—薬菜原 No.34 遺跡—」『宮城考古学』16 pp.107-120, 2014.05.11

鹿又喜隆 「雲仙普賢岳噴火災害から 20 年の経験と東日本大震災からの復興—特に災害の記憶を伝えるために—」『宮城考古学』第 16 号 pp.11-18, 2014.05.11

Yoshitaka Kanomata, Andrei V. Tabarev, Julia V. Tabareva and Karen E. Stothert 2014.06.Un Nuevo Acercamiento al Estudio de Herramientas Líticas de la Cultura Milenaria “Las Vegas” Santa Elena, Ecuador. *Ciencias Pedagógicas e Innovación* vol. II-1 pp.7-15 Universidad Estatal Península de Santa Elena.

鹿又喜隆・村田弘之・梅川隆寛・洪惠媛・柳田俊雄・阿子島香・鈴木三男・井上巖・早瀬亮介・小原圭一 2015.3.26.「九州地方における洞穴遺跡の研究—長崎県福井洞穴第三次発掘調査報告書—」*Bulletin of the Tohoku University Museum* No.14 pp.5-190

大塚和義・鹿又喜隆 2015.03.26.福井洞穴第三次発掘の意義と調査方法について *Bulletin of the Tohoku University Museum* No.14 pp.191-200

鹿又喜隆・熊谷亮介 2015.03.25.「清水西遺跡出土石器の形態と機能の関係」『清水西遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 220 集公益財団法人山形県埋蔵文化財センター 付編 pp.10-24

Yoshitaka Kanomata 2015.03. Chronology of the Upper Palaeolithic Bifacial Point Industry in Northeastern Honshu. *Saito Ho-on Kai Museum Research Bulletin*, No.79 pp.27-36

佐野勝宏・鹿又喜隆・村田弘之・阿子島香・柳田俊雄「山形県舟形町高倉山遺跡第 1 次発掘調査」『第 24 回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』：pp. 87-92, 2010

佐野勝宏「東北大学文学研究科所蔵考古資料による社会貢献と歴史資源アーカイブ—平成 22 年度事業報告と過去 3 年間の成果を振り返って—」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 20～22 年度歴史資源アーカイブ成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 19-29, 2011

佐野勝宏「ヨーロッパにおける中期—後期旧石器時代移行期の新局面」『第 3 回研究大会 ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相：学習能力の進化に基づく実証的研究』：p. 22, 2011

- 佐野勝宏・小野 昭「ヨーロッパにおける旧人石器群と新人石器群の消長と拡散」『日本考古学協会第77回総会 研究発表要旨』：pp. 168-169, 2011
- 佐野勝宏「彫器再考：彫刀面打撃の役割に関する機能論的検討」『旧石器研究』第7号：pp. 15-35, 2011
- Sano, Katsuhiko, Andreas Maier, & Stephan M. Heidenreich. Bois Laiterie revisited: Functional, morphological and technological analysis of Glacial hunting camp in north-western Europe. *Journal of Archaeological Science* 38: pp. 1468-1484, 2011
- 佐野勝宏「石器に残される狩猟痕跡認定のための指標」『考古学ジャーナル』614：pp. 20-25, 2011
- Sano, Katsuhiko, Mobility and Lithic Economy in the Terminal Pleistocene of Central Honshu. *Asian Perspectives* 49(2): pp. 279-293, 2011
- 佐野勝宏・鹿又喜隆・阿子島香・傳田惠隆・柳田俊雄「山形県舟形町高倉山遺跡第2次発掘調査」『第25回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』：pp. 74-82, 2011
- Sano, Katsuhiko, Lithic Functional Analysis. In E. Rensink (Ed.) *Eyserheide. A Magdalenian open-air site in the loess area of the Netherlands and its archaeological context*. *Analecta Praehistorica Leidensia* 42, pp. 113-125, Leiden: Faculty of Archaeology, Leiden University, 2011
- 佐野勝宏「考古学的証拠に見る旧人・新人の創造性」西秋良宏編『考古資料に基づく旧人・新人の学習行動の実証的研究—「交替劇」A01班2011年度研究報告—』No. 2: 16-24, 2012
- 佐野勝宏・傳田惠隆「J15出土旧石器資料の機能分析」『山形県埋蔵文化財センター調査報告書第200集 高瀬山(HO)3期発掘調査報告書』財団法人山形県埋蔵文化財センター：120-124, 2012
- 傳田惠隆・佐野勝宏「高倉山遺跡出土資料のファブリック解析」『旧石器考古学』76：pp.69-82, 2012
- 佐野勝宏・傳田惠隆・大場正善「狩猟法同定のための投射実験研究(1) —台形様石器—」『旧石器研究』第8号：pp.45-63, 2012
- Sano, Katsuhiko, Functional variability in the Magdalenian of north-western Europe: A lithic microwear analysis of the Gönnersdorf K-II assemblage, *Quaternary International* 272-273: 264-274, 2012
- Sano, Katsuhiko, Funktionsanalyse an Steinartefakten von Rietberg und Salzkotten-Thüle. In J. Richter (Ed.) *Rietberg und Salzkotten-Thüle. Anfang und Ende der Federmessergruppen*

in Westfalen. Kölner Studein zur Prähistorischen Archäologie Band 2, pp. 283-294, Rahden/Westf.: Leidorf, 2012

佐野勝宏・鹿又喜隆・洪惠媛・川口亮・張思熠・阿子島香・柳田俊雄「山形県舟形町高倉山遺跡第3次発掘調査」『第25回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』：pp. 69-78, 2012

佐野勝宏・洪惠媛・張思熠・鹿又喜隆・阿子島香・柳田俊雄 2013「山形県高倉山遺跡出土ナイフ形石器に残る狩猟痕跡の研究」『Bulletin of the Tohoku University Museum』12 pp.45-76

工藤麻衣・川口亮「東北大学所蔵の麻生遺跡コレクション(2)」『秋田考古学』56, pp.1-11, 2012.12

川口亮「須恵器からみた横穴墓と官衙—多賀城以前の仙台平野南部について—」『歴史』121, pp.15-44, 2013.10

川口亮・村椿篤史「東北大学所蔵の麻生遺跡コレクション(3)」『秋田考古学』57, pp.1-17, 2013.12

大場正善・鈴木雅・渡邊安奈・村田弘之・川口亮・山中一郎・会田容弘「新潟県檜ノ木平遺跡第3次発掘調査」『第25回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』 pp.43-57, 2014.2

川口亮・村椿篤史・熊谷亮介「東北大学所蔵の麻生遺跡コレクション(4)」『秋田考古学』58 pp.1-21 2014.12

1-2 著書・編著

阿子島香（共著）『考古学—その方法と現在—』（第5章「層位学と年代」、第9章「使用痕分析と実験考古学」、第14章「遺跡内での遺物分布」、「プロセス考古学とアメリカ考古学」）、放送大学印刷教材、国立印刷局、2002.3

阿子島香・小原一成（編）『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成21年度院生プロジェクト成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻、277 p, 2011

阿子島香・小原一成（編）『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成21年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻、450 p., 2011

阿子島香・小原一成（編）『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成20～22年度歴史資源アーカイブ成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学

専攻, 181 p., 2011

小原一成・阿子島香 (編) 『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻, 520 p., 2011

鹿又喜隆・馬目勝典 (共著) 『大畑遺跡群における旧石器時代資料の研究—大畑 K 遺跡—』38p. 2011.12

鹿又喜隆「失われた遺跡の再発見—遺物の秘めた記憶—」『人文社会科学シリーズVII 「地域」再考—復興の可能性を求めて』東北大学出版会 137-153, 2014.03.27

鹿又喜隆・高原要輔・会田容弘 2014.07.05. 『猪苗代湖畔に消えた旧石器時代遺跡—福島県笹山原 No.27 遺跡の細石刃石器群の研究—』100 頁、(株) 仙台共同印刷

Iovita, Radu. and Sano, Katsuhiko (Eds.) *Multidisciplinary Approaches to the Study of Stone Age Weaponry*, Springer, Dordrecht, (in press)

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

阿子島香 「ミドルレンジセオリーと実験使用痕分析」『石器使用痕研究会会報』10, p.4, 2010

傳田惠隆・村田弘之・芝康次郎・阿子島香 「東北大学基準資料の考え方」『石器使用痕研究会会報』10, p.5-6, 2010.3

阿子島香・有光秀行・芳賀京子「『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画』院生プロジェクト」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 21 年度院生プロジェクト成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻 : pp. 1-107, 2011

阿子島香「各専攻分野の活動 (1) 考古学専攻分野・文化財科学専攻分野」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 21 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻 : pp. 2-3, 2011

阿子島香「大学院生海外研修実地指導 (フランス)」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 21 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻 : pp. 17-20, 2011

有光秀行・阿子島香・市川健夫「平成 21 年度『大学教育改革プログラム合同フォーラム』ポスターセッション参加報告について」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 21 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻 : pp. 32-36, 2011

阿子島香「カリキュラムの概要」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平

- 成 21 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻: pp. 190-191, 2011
- 阿子島香「キュレーター養成コース・アーキビスト養成コースへの登録」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 21 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻: pp. 194-228, 2011
- 阿子島香・鹿又喜隆「遺跡調査システムの導入について」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 21 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻: pp. 335-338, 2011
- 阿子島香・有光秀行・芳賀京子「歴史資源アーカイブ構築に関する取り組みの総括」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 20～22 年度歴史資源アーカイブ成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻: pp. 2-11, 2011
- 村田弘之・阿子島香「長崎県福井洞穴出土資料の歴史資源アーカイブ構築」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 20～22 年度歴史資源アーカイブ成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻: pp. 30-40, 2011
- 村田弘之・阿子島香「芹沢資料の歴史資源アーカイブ」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 20～22 年度歴史資源アーカイブ成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻: pp. 41-51, 2011
- 阿子島香・芳賀京子・泉 武夫・有光秀行・大藤 修・河合 安・小原一成・中村里那「歴史科学専攻分野における大学院 GP の取組」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻: pp. 11-23, 2011
- 阿子島香「国際シンポジウム—『フランス考古学の現在』」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻: pp. 26-35, 2011
- 阿子島香「国際セミナー・歴史資源ワークショップ Analytical method of stone tools in France」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻: p. 51, 2011
- 阿子島香「ロシア科学アカデミー・シベリア支部との大学院生教育交流」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻: pp. 66-75, 2011
- 阿子島香「カリキュラムの概要」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻: pp. 82-83,

2011

阿子島香「院生プロジェクトの総括」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画
平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp.
260-261, 2011

阿子島香「大学院 GP による取組と歴史科学専攻」『歴史資源アーカイブ国際高度学
芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科
学専攻：pp. 510-516, 2011

阿子島香「東北大学におけるキュレーター養成の展望」『歴史資源アーカイブ国際高
度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴
史科学専攻：pp. 517-518, 2011

阿子島香「富沢遺跡 30 次発掘調査の考古学的意義」『発掘富沢!! 30 年のあゆみ』仙
台市富沢遺跡保存館：pp.14-17, 2012

Akoshima, Kaoru, and Kanomata, Yoshitaka. Stone tool caching behavior in NE Japan at the
end of the Pleistocene and its implications. Kurtak and Suyanggae, the 17th
International Symposium: Suyanggae and her Neighbours in Kurtak: pp. 85-87, 2012

阿子島香「バッファロー・ハンター、トナカイ・ハンターの遺跡と「民族考古学」」
『旧人・新人の狩猟具と狩猟法』（「ネアンデルタールとサピエンス交替劇の
真相」シンポジウム予稿集、p.7）2013.2

Akoshima, Kaoru, and Denda, Yoshitaka. Use-wear, technology, and spatial organization in
the Upper Palaeolithic of Northeast Japan. Abstract, the 6th annual meeting of Asian
Palaeolithic Association. (Yinchuan, China), p.1.

阿子島香「第 6 回アジア旧石器協会中国大会」『日本旧石器学会ニューズレター』第
24 号：pp.9-12, 2013.8

Akoshima, Kaoru. Integrating theories with techniques in lithic microwear analysis, with
special reference to obsidian and other raw material utilization. Program of the 7th
International Symposium of the Asian Paleolithic Association, p.145.

鹿又喜隆「福島県笹山原 No.27 遺跡の細石刃石器群の機能研究」『石器使用痕研究会
会報』10 号 pp.7-8 2010

鹿又喜隆「I 2008 年度の日本考古学会 4 旧石器時代研究の動向」『日本考古学
年報』61 巻 pp.22-28 2010.5.20

鹿又喜隆・柳田俊雄・阿子島香・佐野勝宏・村田弘之・傳田惠隆「山形県丸森 1 遺

跡第三次発掘調査の概要」, 『東北史学会 2010 年度大会発表要旨』 p.2 2010.10.3
鹿又喜隆「放射性炭素年代測定」 『計量分科会会誌』 vol.18 No.2 pp.6-7, 2010.10.

鹿又喜隆・村田弘之・傳田惠隆・小原一成・五十嵐愛「国際フィールドスクール『山形県真室川町埋蔵文化財調査実習』報告」 『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 21 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻 : pp. 131-136, 2011

鹿又喜隆「Paleolithic of the Russian Far East/ Neolithic of the Russian Far East アンドレイ・ターバレフ氏」 『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 21 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻 : pp. 159-175, 2011

鹿又喜隆「Middle Neolithic of the Maritime region (Primorye): Sites Cultures, Landscape アレクサンダー・ポポフ氏」 『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 21 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻: pp. 176-187, 2011

鹿又喜隆・佐野勝宏・村田弘之・傳田惠隆・五十嵐愛・曹曉勻「国際フィールドスクール『山形県真室川町埋蔵文化財調査実習』」 『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻 : pp. 36-46, 2011

鹿又喜隆「河南省許昌靈井遺跡の調査と研究」 『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻 : pp. 56-65, 2011

鹿又喜隆「放射性炭素年代測定と考古学的応用」 『計量分科会会誌』 vol.19 No.1 pp.1-3, 2011.4.

鹿又喜隆「2010 年の歴史学界 —回顧と展望— 日本 考古 — 旧石器時代」 『史学雑誌』 第 120 編 第 5 号 pp.11-16, 2011.5.

鹿又喜隆 2011 「2 東北大学所蔵重要考古資料について」 pp.20-21 「コラム 1 縄文時代草創期と日向洞窟の年代」 pp.37-38 『山形県立博物館 40 周年記念展 出羽国成立以前の山形 山形と層北大学所蔵重要考古資料』 山形県立博物館

鹿又喜隆「2011 年 3 月 11 日の東北大学考古学研究室とその後」 『宮城考古学』 14 pp.73-74 2012.5

鹿又喜隆「日本旧石器学会第 10 回講演・研究発表シンポジウム「旧石器時代遺跡・立地・分布研究の新展開」」 『旧石器研究』 第 9 号 pp.149-152

鹿又喜隆 2012 「旧石器時代の石器の使い方」 『ひらけ！旧石器人の道具箱』 地底の森

ミュージアム平成 25 年度特別企画展 pp.50-57

柳田俊雄・鹿又喜隆 2012「第 1 章 人類文化の期限を求めて～最古の狩人たち～」『考古学からの挑戦－東北大学考古学研究の軌跡－』 pp.1-11

鹿又喜隆「第 2 章第 4 節 貴重資料の収集・保管－奥羽史料調査部による研究の開始－」 pp.25-48『同上』東北大学総合学術博物館・東北歴史博物館・福島県立博物館

鹿又喜隆「新庄盆地における旧石器時代研究の新展開」『東北史学会発表要旨』 p.6, 2013.10.

鹿又喜隆「頁岩の獲得・消費と遺跡群の形成－東北－」『日本旧石器学会第 12 回講演・研究発表会シンポジウム予稿集』 pp.51-54 2014.06.21

鹿又喜隆「1 狩猟採集文化を洗練させた旧石器人」『新発見！ 週刊日本の歴史』 49 pp.10-12, 26 朝日新聞出版 2014.06.10

鹿又喜隆・川口亮「宮城県仙台市野川遺跡 2014 年度発掘調査の概要」, 『第 28 回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』 pp.11-16 2015.2.21.

洪恵媛・鹿又喜隆・川口亮・村椿篤史・阿子島香・柳田俊雄「山形県新庄市白山 E 遺跡第 2 次発掘調査」, 『第 28 回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』 pp.46-55 2015.2.21.

佐野勝宏「ステージ 3 プロジェクトの到達点」西秋良宏編『考古資料に基づく旧人・新人の学習行動の実証的研究－「交替劇」 A01 班 2010 年度研究報告－』 No. 1: 47-50, 2011

佐野勝宏「考古学的証拠にみる旧人・新人の創造性」『第 4 回研究大会 ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相：学習能力の進化に基づく実証的研究』 : pp. 28-29, 2011

佐野勝宏「ヨーロッパにおける中期旧石器時代後葉から後期旧石器時代前葉の石器群とそれに共伴する人骨」『第 4 回研究大会 ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相：学習能力の進化に基づく実証的研究』 : pp. 48-51, 2011

佐野勝宏「ヨーロッパにおける中期・後期旧石器時代インダストリーの編年的・地理的分布パターン」『第 5 回研究大会 ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相：学習能力の進化に基づく実証的研究』 : pp. 10-11, 2012

佐野勝宏「ヨーロッパにおける中期・後期旧石器時代遺跡の時空間分布」『日本旧石器学会第 10 回講演・研究発表シンポジウム予稿集 旧石器時代遺跡・立地・分

布研究の新展開』日本旧石器学会：pp.63-66, 2012

Katsuhiko Sano Projectile experimentation for identifying hunting methods with replicas of Upper Palaeolithic weaponry from Japan. p.43 *International conference on use-wear analysis*. Faro, Portugal, Oct. 2012

佐野勝宏「複合的狩猟技術の出現：新人のイノベーション」『旧人・新人の狩猟具と狩猟法』予稿集 p.6, 2013.2

1-4 口頭発表

国内学会

阿子島香 「『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画』（大学院GP）の目指すもの」『第5回博物科学会（大学博物館等協議会2010年度大会）特別講演』, 2010.6.24 東北大学総合学術博物館,(要旨集 p.13-14.)

阿子島香 「『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画』の概要について」『第5回博物科学会（大学博物館等協議会2010年度大会）』, 2010.6.24 東北大学総合学術博物館,(要旨集 p.29.)

阿子島香 「日本文化のあけぼの：旧石器時代から縄文時代へ」『東北大学2010年度訪問講座』ロシア・ノボシビルスク国立大学東洋学部, 2010.10.7

阿子島香 「早水台遺跡下層出土の石器群について」『国際シンポジウム 東アジアの旧石器文化と早水台遺跡』, 別府大学創立60周年記念第14回文化財研究所文化財セミナー, 2011.2.13

阿子島香 「太古の石器の東と西—地球的に考える」山形県立博物館『出羽の国成立以前の山形』, 2011.11.20

阿子島香 「「技術組織論」（技術的組織論）から見た「動作連鎖論」の在り方」『宮城旧石器研究会』, 2012.7.14

阿子島香 「石器使用痕分析の国際比較—歴史叙述と事実復元—」東北史学会2012年度大会考古学部会（於岩手大学）2012年10月7日

阿子島香 「技術組織論・動作連鎖論の人類学的背景と考古学的適用」第26回東北日本の旧石器文化を語る会（於東北大学）2012年12月22日

阿子島香 「バッファロー・ハンター、トナカイ・ハンターの遺跡と「民族考古学」」『旧人・新人の狩猟具と狩猟法』（「ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相」シンポジウム）、東北大学、2013年2月9日

阿子島香 「サハリン考古学の先駆者 伊東信雄博士」福島県立博物館『東北大学総合学

術博物館のすべて 13 『考古学からの挑戦』講演、2013.11.3

鹿又喜隆 2010 「日本列島における後期旧石器時代初頭の概要と課題」, 平成 22 年度
宮城県考古学会・特集「日本列島の人類文化はどこまで遡るか—この 10 年間の
主要な調査遺跡の概要と課題を中心に—」, 2010.5.16

鹿又喜隆・柳田俊雄・阿子島香・佐野勝宏・村田弘之・傳田惠隆 「山形県丸森 1 遺
跡第三次発掘調査の概要」, 東北史学会 2010 年度大会・考古学部会 2010.10.3,
(於) 山形大学

鹿又喜隆 「放射性炭素年代測定」 第 36 回計量分科会, 2010.10.15

鹿又喜隆 「後期旧石器時代前半期石器群の機能的考察」 第 24 回東北日本の旧石器文化
を語る会 2010.12.18 (於) 秋田市中央公民館

鹿又喜隆 「山形県内の発掘調査」 平成 23 年度山形県考古学会 2011.8.6 (於) 寒河江市
文化センター

鹿又喜隆 「石器製作におけるアクションスリップとミステイク—丸森 1 遺跡と荒屋遺
跡における動作連鎖と技術組織—」 宮城旧石器研究会 2012.07.14.

鹿又喜隆・佐野勝宏・柳田俊雄・阿子島香 「山形県舟形町高倉山遺跡第三次発掘調
査の概要」, 東北史学会 2012 年度大会・考古学部会 2012.10.7, (於) 岩手大
学盛岡市

鹿又喜隆 「石器作りの「上手・下手」の客観的評価—荒屋遺跡出土の彫刻刀形石器に
おける使用と刃部再生の技術組織—」 第 26 回東北日本の旧石器文化を語る会
2012.12.21

鹿又喜隆 「雲仙普賢岳噴火災害から 20 年を経た知見」 宮城県考古学会総会・研究発表
会 2013.05.19

鹿又喜隆 「新庄盆地における旧石器時代研究の新展開」 2013 年度東北史学会 (於) 東
北大学 2013.10.13

鹿又喜隆・川口亮・洪惠媛・村椿篤史・阿子島香・柳田俊雄 「山形県新庄市白山 E 遺
跡第 1 次発掘調査」, 第 27 回東北日本の旧石器文化を語る会 (於) 北海道大学
2014.2.01.

鹿又喜隆 「頁岩の獲得・消費と遺跡群の形成—東北—」 日本旧石器学会第 12 回講演・
研究発表会シンポジウム 2014.06.22

鹿又喜隆・川口亮 「宮城県仙台市野川遺跡 2014 年度発掘調査の概要」, 『第 28 回東
北日本の旧石器文化を語る会予稿集』 pp.11-16 2015.2.21.

佐野勝宏・鹿又喜隆・村田弘之・阿子島香・柳田俊雄「山形県舟形町高倉山遺跡第1次発掘調査」『第24回東北日本の旧石器文化を語る会』，秋田：秋田市中心公民館，2010年12月18－19日

佐野勝宏「人類移動の考古学的痕跡」『観光の起源に関する学際的研究～ヒトはなぜ旅するのか』，沖縄：沖縄県立博物館，2011年3月10～11日

佐野勝宏「ヨーロッパにおける中期-後期旧石器時代移行期の新局面」『ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相：学習能力の進化に基づく実証的研究』科学研究費補助金新学術領域研究「交替劇」第3回研究大会，東京：学術総合センター，2011年4月23－24日

佐野勝宏・小野 昭「ヨーロッパにおける旧人石器群と新人石器群の消長と拡散」『旧人・新人の石器製作学習行動を探る』日本考古学協会第77回総会研究発表セッション5，東京：國學院大學，2011年5月28－29日

佐野勝宏「考古学的証拠にみる旧人・新人の創造性」『ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相：学習能力の進化に基づく実証的研究』科学研究費補助金新学術領域研究「交替劇」第4回研究大会，岡崎：岡崎コンファレンスセンター，2011年12月10－11日

佐野勝宏・鹿又喜隆・阿子島香・傳田惠隆・柳田俊雄「山形県舟形町高倉山遺跡第2次発掘調査」『第25回東北日本の旧石器文化を語る会』，青森：アピオ青森，2011年12月17－18日

佐野勝宏「ヨーロッパにおける石器接合研究」『研究集会 石器接合資料研究の諸問題』，北海道：北海道大学，2012年3月17日

佐野勝宏「ヨーロッパにおける中期・後期旧石器時代インダストリーの編年的・地理的分布パターン」『ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相：学習能力の進化に基づく実証的研究』科学研究費補助金新学術領域研究「交替劇」第5回研究大会，東京：学術総合センター，2012年4月14－16日

佐野勝宏「ヨーロッパにおける旧石器文化編年からみた現代人的行動の出現パターン」『ホモ・サピエンスと旧人—旧石器考古学から見た交替劇—』，東京：東京大学，2012年6月16日－17日

佐野勝宏「ヨーロッパにおける中期・後期旧石器時代遺跡の時空間分布」『日本旧石器学会第10回講演・研究発表シンポジウム』，奈良：奈良文化財研究所，2012年6月23日－24日

佐野勝宏・鹿又喜隆・洪惠媛・川口亮・張思熠・阿子島香・柳田俊雄「山形県舟形町

高倉山遺跡第3次発掘調査 『第25回東北日本の旧石器文化を語る会』、東北大学、2012年12月22・23日

佐野勝宏「複合的狩猟技術の出現：新人のイノベーション」『旧人・新人の狩猟具と狩猟法』仙台、東北大学 2013年2月

川口亮「色麻古墳群の再検討に向けて—出土須恵器の様相から—」2013年度東北史学会大会、東北大学、2013年10月13日

国際学会

Akoshima, Kaoru. Site structure patterns in Magdalenian rockshelter terrace deposits at the Abri Dufaure, Les Landes, France. The Graduate GP International Symposium: Technological Evolution through the End of the Paleolithic –a Comparative Perspective from France. April 3, 2010. Tohoku University.

Akoshima, Kaoru. Technological organizations and lithic use-wear: Impacts on East Asian prehistory. Paper presented at 75th annual meeting of the Society for American Archaeology (St. Louis), April 16, 2010.

Akoshima, Kaoru. Lithic use-wear analysis: Method and theory now and then. The 15th International Symposium: Suyanggae and Her Neighbours. May 23, 2010, Suyanggae Prehistory Museum (Danyang, Korea).

Akoshima, Kaoru. Integrating lithic microwear data with site structure analysis: an organizational approach. The 3rd Asian Paleolithic Association International Symposium. October 13, 2010. Gonju, Korea.

Akoshima, Kaoru, and Yanagida Toshio. Bifacial Elements in the Japanese Early Palaeolithic industry: the Sozudai site, Kyushu Island. The 2nd International Symposium of Bifaces of the Lower and Middle Pleistocene of the World, in celebration for the opening of Jeongok (Chongok) Prehistory Museum, Gyeonggi, Korea, 2011.5.2

Akoshima, Kaoru. Prehistoric Stone Tool Function and Technological Organization in Northeast Japan. (於) 台湾中央研究院歴史語言研究所, 2011.6.2

Akoshima, Kaoru. Some characteristics of the Palaeolithic industry in the Japanese archipelago. Universite Paris I (Pantheon-Sorbonne), 2011.11.2

Akoshima, Kaoru. Lithic microwear data and site structure in the Japanese Upper Palaeolithic open-air sites. CNRS (Maison Rene Ginouves Archeologie et Ethnologie, Nanterre),

2011.11.10

Akoshima, Kaoru. From microblade to arrowhead: function and technological organization through the end of the Palaeolithic in Northeastern Japan. Paper presented at 77th annual meeting of the Society for American Archaeology (Memphis), April 19, 2012

Akoshima, Kaoru, and Yanagida, Toshio. Japanese Palaeolithic in the Asian bifacial tradition: a case from Sozudai, Kyushu. International symposium, recent developments in East Asian prehistory. (Tohoku University, Graduate School of Arts and Letters), October 31, 2012.

Akoshima, Kaoru, and Denda, Yoshitaka. Integrating lithic microwear traces with site structure and settlement mobility patterns in the Upper Palaeolithic of Northeast Japan. Paper presented at 78th annual meeting of the Society for American Archaeology (Honolulu), April 5, 2013.

Akoshima, Kaoru, and Denda, Yoshitaka. Use-wear, technology, and spatial organization in the Upper Palaeolithic of Northeast Japan. Paper presented at the 6th annual meeting of Asian Palaeolithic Association. (Yinchuan, China), June 27, 2013

Akoshima, Kaoru. The Old Stone Age of Japanese Archipelago and Siberia, with special reference to lithic use-wear analysis. The Second Social Science and Humanities Forum between Japan and Russia. (Moscow State University), October 11, 2013.

Akoshima, Kaoru. Around Clovis culture, before and after in the North American Plains. International symposium, New horizon of scientific cooperation, Russian and Japanese archaeologists in Paleoamerican studies. (Tohoku University, Graduate School of Arts and Letters), October 23, 2013.

Akoshima, Kaoru. Escaping the confines of use-wear identification: High power, low power, and raw materials in lithic microwear analysis. Paper presented at 79th annual meeting of the Society for American Archaeology (Austin, TX), April 25, 2014.

Akoshima, Kaoru and Yanagida, Toshio. Continuing investigation at the Sozudai site, Northern Kyushu. IN Symposium, Starting Over Again: the Early Palaeolithic Research in Japan Today. The 6th Worldwide Conference of Society for East Asian Archaeology. (Ulaanbaatar, Mongolia). June 8, 2014.

Akoshima, Kaoru, Evaluating lithic microwear traces in terms of settlement mobility patterns and raw material distributions. Paper presented at 80th annual meeting of the Society for American Archaeology (San Francisco, CA), April 19, 2015

Akoshima, Kaoru, Integrating theories with techniques in lithic microwear analysis, with

special reference to obsidian and other raw materials utilization. The 7th International Symposium of the Asian Paleolithic Association (Gonju, Korea), November 14, 2014.

Kanomata Yoshitaka Functional Versatility of Tools in Microblade Industries *Diversity of the Asian Palaeolithic Culture: Recent Progress and New Trends* The 3rd Asian Palaeolithic Association International Symposium, 2011.10. 12 in Gongju city, Korea

Kanomata Yoshitaka and Akoshima Kaoru Site Structure and Human Behavior at the Araya site, Northeastern Japan *The 16th International Symposium: SUYANGGAE and Her Neighbours in Nihewan* 2011.8.15 in Yangyuan County, Hebei Province, China

Yoshitaka Kanomata Functional Analysis of Stone Tools Excavated from the Jizouden Site and Interpretation of the Formation Process of the Circular Lithic Distribution. *Dual Symposia The Emergence and Diversity of Modern Human Behavior in PalaeolithicAsia & the 4th Annual Meeting of the Asian Palaeolithic Association*, 2012.11 in Tokyo, Japan

Yoshitaka Kanomata 「Use-wear Analysis on Palaeolithic Artifacts of Northern Mongolia」 International Symposium Recent Developments in East Asian Prehistory 2012.10.31 (於) 東北大学

Yoshitaka Kanomata 「Relationship between Stratigraphy and Radiocarbon Determinations of Microblade Industry at the Fukui Cave.」 International Symposium “Transpacific Perspectives on Post-Pleistocene Adaptations” 2014.10.21 (於) 東北大学

Yoshitaka Kanomata 「The Significance in Functional Analysis of Lithic Artifacts in Ecuador.」 International Symposium “New Horizon of Scientific Cooperation, Russian and Japanese Archaeologists in Paleoamerican Studies” 2013.10.23 (於) 東北大学

Sano, Katsuhiko, Erste Ergebnisse der Gebrauchsspurenanalysen von Neumark-Nord 2, *Paläoumwelt, Geochronologie und Archäologie der mittelpaläolithischen Fundstelle Neumark-Nord*, Halle, Germany, March, 2010.

Sano, Katsuhiko, Functional Variability in Magdalenian of North-Western Europe, *XVIII. INQUA (International Union for Quaternary Research) Congress 2011*, Bern, Switzerland, July 22nd - 27th, 2011

Sano, Katsuhiro, Yoshitaka Denda, & Masayoshi Ohba, Experiments in fracture patterns and impact velocity with replica projectile points from Japan, *Multidisciplinary Scientific Approaches to the Study of Stone-Age Weaponry*, Mainz, Germany, September 19th – 22nd, 2011

Sano, Katsuhiro, Yoshitaka Denda, Masayoshi Ohba, and Iovita Radu, Projectile Experiments in Fracture Patterns and Impact Velocity: Towards Understanding to Hunting Evolution, *The 4th Meeting of the Asian Palaeolithic Association*, Tokyo, November 26th – December 1st, 2011

Katsuhiro Sano Projectile experimentation for identifying hunting methods with replicas of Upper Palaeolithic weaponry from Japan. p.43 *International conference on use-wear analysis*. Faro, Portugal, October 10th 2012

2 教員の受賞歴 (2010～2014 年度)

なし

IV 教員による競争的資金獲得 (2010～2014 年度)

(1) 科学研究費補助金

2010 年度

佐野勝宏 助教

研究活動スタート支援『東アジアにおける狩猟法の発展に関する実験考古学的研究』(研究代表者), 1,573,000 円

2011 年度

鹿又喜隆 准教授

若手研究 (B) 『トライボロジーによる石器機能推定の高確度化とその応用による先史狩猟採集民研究』(研究代表者), 1,170,000 円

佐野勝宏 助教

研究活動スタート支援『東アジアにおける狩猟法の発展に関する実験考古学的研究』(研究代表者), 1,430,000 円

新学術領域研究『考古資料に基づく旧人・新人の学習行動の実証的研究』(研究分担者), 1,500,000 円

2012 年度

鹿又喜隆 准教授

若手研究 (B) 『トライボロジーによる石器機能推定の高確度化とその応用による先史狩猟採集民研究』 (研究代表者), 650,000 円

佐野勝宏 助教

若手研究 (B) 『東アジアにおける先史時代の遠隔射撃狩猟の出現に関する実験考古学的研究』 (研究代表者), 1,820,000 円

新学術領域研究『考古資料に基づく旧人・新人の学習行動の実証的研究』 (研究分担者), 1,950,000 円

2013 年度

阿子島香 教授

基盤研究 (C) 『石器使用痕の判定グローバル基準と比較文化的な機能形態学の構築』 (研究代表者), 1,300,000 円

鹿又喜隆 准教授

若手研究 (B) 『トライボロジーによる石器機能推定の高確度化とその応用による先史狩猟採集民研究』 (研究代表者), 780,000 円

基盤研究 (C) 『石器使用痕の判定グローバル基準と比較文化的な機能形態学の構築』 (研究分担者), 300,000 円

2014 年度

阿子島香 教授

基盤研究 (C) 『石器使用痕の判定グローバル基準と比較文化的な機能形態学の構築』 (研究代表者), 1,000,000 円

鹿又喜隆 准教授

若手研究 (B) 『トライボロジーによる石器機能推定の高確度化とその応用による先史狩猟採集民研究』 (研究代表者), 810,000 円

基盤研究 (C) 『石器使用痕の判定グローバル基準と比較文化的な機能形態学の構築』 (研究分担者), 300,000 円

2015 年度

阿子島香 教授

基盤研究 (C) 『石器使用痕の判定グローバル基準と比較文化的な機能形態学の構築』 (研究代表者), 900,000 円

(2) その他

阿子島香 教授

2008～2011 年度 文部科学省・大学院教育改革支援プログラム (大学院G P)

『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画』東北大学大学院文学研究科・歴史科学専攻 (取組実施担当者代表)

鹿又喜隆 准教授

2011 年度 斎藤報恩会研究助成金「AMS-¹⁴C 年代測定の援用による旧石器時代の高精度編年研究」, 400,000 円

鹿又喜隆 准教授

2013 年度 斎藤報恩会研究助成金「AMS-¹⁴C 年代測定の援用による旧石器時代の高精度編年研究」, 400,000 円 (2014.2.受入)

V 教員による社会貢献 (2010 年～2015 年 5 月 20 日)

阿子島香 教授

仙台市市民文化事業団理事 (2004～2012)

宮城県文化財保護審議会委員 (2008～)

宮城県特別名勝松島保存管理計画策定会議委員 (2008～2010)

東北歴史博物館協議会資料収集専門部会委員 (2013～)

仙台市文化財展仙台発掘ミュージアム講師「山田上ノ台遺跡の意義について」
(2013.11.17)

第 13 期有備館講座講師「壁画洞穴を残した人々」(2014.5.10)

出前講義「人類の太古を考える」岩手県花巻北高校 (2014.6.3)

鹿又喜隆 准教授

「人間理解の方法論」みやぎ県民大学講師 (2011.8)

「東北大学大学院文学研究科市民のための公開講座 齋理蔵の講座」(講師)
(2012.6)

「細石刃集団の南下」岩宿大学 講師 (2012.9)

「旧石器人のライフヒストリー」仙台市富沢遺跡保存館・地底の森ミュージアム
平成 25 年度特別企画展公演 (2013.08.)

山形県鶴岡南高校出前講義 (2013.09.)

VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2010～2015年度）

阿子島香 教授

Asian Palaeolithic Association, Secretary General (2012~2014)

東北史学会評議員（2004～）

東北史学会監事（2011～2012）

東北大学文学部考古学研究会代表（2007～）

東北日本の旧石器文化を語る会役員（2008～）

日本旧石器学会役員（2010～2014）

日本旧石器学会渉外委員長（2012~2014）

鹿又喜隆 准教授

東北日本の旧石器文化を語る会役員（2008～）

東北史学会評議員・理事（2009～）

宮城県考古学会総務代表幹事（2010～）

日本旧石器学会役員（2012～）

日本旧石器学会データベース委員会委員長（2012～）

VII 教員の教育活動

（1）学内授業担当（2015年度）

1 大学院授業担当

阿子島香 教授

考古学研究実習Ⅰ（1学期）「考古学の調査と資料分析（1）」

考古学研究実習Ⅱ（2学期）「考古学の調査と資料分析（2）」

資料基礎論特論（2学期）「先史考古学資料論」

考古学研究演習Ⅰ（1学期）「考古学研究史」

考古学研究演習Ⅱ（2学期）「考古学の方法と理論」

鹿又喜隆 准教授

考古学研究実習Ⅰ（1学期）「考古学の調査と資料分析（1）」

考古学研究実習Ⅱ（2学期）「考古学の調査と資料分析（2）」

考古学特論Ⅰ（1学期）「日本考古学の諸問題」

考古学研究演習Ⅰ（1学期）「考古学研究史」

考古学研究演習Ⅱ（2学期）「考古学の方法と理論」

2 学部授業担当

阿子島香 教授

- 考古学概論（3 Semester）「先史考古学概説」
- 考古学講読（5 Semester）「先史文化研究」
- 考古学演習（5 Semester）「考古学研究史」
- 考古学演習（6 Semester）「考古学の方法と理論」
- 考古学実習（5 Semester）「考古学資料分析法（1）」
- 考古学実習（6 Semester）「考古学資料分析法（2）」
- 資料基礎論各論（6 Semester）「先史考古学資料論」

鹿又喜隆 准教授

- 考古学概論（4 Semester）「日本考古学概説」
- 考古学基礎実習（3 Semester）「考古学資料の観察と記録」
- 考古学各論（5 Semester）「日本考古学の諸問題」
- 考古学演習（5 Semester）「考古学研究史」
- 考古学演習（6 Semester）「考古学の方法と理論」
- 考古学実習（5 Semester）「考古学資料分析法（1）」
- 考古学実習（6 Semester）「考古学資料分析法（2）」
- 考古学基礎講読（4 Semester）「考古学資料読解」

3 共通科目・全学科目授業担当

なし

(2) 他大学への出講（2010～2015年度）

阿子島香 教授

放送大学分担協力講師「考古学」（2010～2012年度）